

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価(1/2)

評価日時：令和7年5月8日

会議名称：自己点検・評価委員会

開催場所：呉工業高等専門学校

参加者：校長、副校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、総合情報センター長、地域実践教育センター長、協働研究センター長、技術センター長、事務部長、総務課長、学生課長

目的：令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の自己点検評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	B	授業担当教員からの報告に基づき、教務主事室(教務係)において履修状況や単位修得状況を取りまとめており、適切に状況把握を行っている。本教育プログラムの対象科目は必修科目が中心となっており、選択科目についても希望する全ての学生が履修できるよう夏季集中講義により開講している。これらより、現時点において一定の履修・修得状況を確保できる体制がとられており、令和6年度においては全学生の約3割が履修している。今後、履修者・修了者ともに増加する見込みである。
学修成果	B	学修成果の状況については、卒業・進級判定会議時に教員全員に配付される成績一覧表等により、本教育プログラム対象科目を含む全学生の履修・単位修得状況を確認する体制がとられており、これに基づいて担任、学科教育主任、授業担当教員から学生に対して適切な指導が行われている。また、期中においても、各専門学科における分野会議において、学科教育主任の下で各学生の学修状況の把握に努めている。なお、本プログラムを受講したほとんどの学生が単位を取得しており、一定以上の学生の理解度が担保されている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	講義・実験実習等の概ね全科目について学生による授業アンケートを実施しており、学生の理解度・満足度等を調査している。本教育プログラム対象科目については、概ね全ての科目で「シラバスに記載された内容を身に着けるのに役立ちましたか」という設問に対して、5点満点中4点以上の評価が得られており、一定の理解度が確保できている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	本教育プログラムの対象科目は必修科目を中心としており、選択科目(AI基礎技術演習)についても履修を希望する全ての学生が履修できるよう夏季集中講義により開講している。これらより、一定の履修・修得状況を確保できる体制がとられている。また、学生による授業アンケートについては、教務委員会が取りまとめの上分析・検証を行っており、プログラム対象科目においても、この結果を活用して次年度以降の授業改善等を図ることで、選択科目を含む履修率の向上に努めている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本教育プログラム対象科目に係る全学的な履修率は、現時点で必修科目において100%、選択科目において約3割となっている。今後教務委員会及び各専門学科における分野会議等の場で、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの意見集約や見直しを図り、選択科目の履修率の向上を図る予定である。

内部評価の基準

A: 十分満足している。B: 満足している。C: 改善を要する。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価(2/2)

評価日時：令和7年5月8日

会議名称：自己点検・評価委員会

開催場所：呉工業高等専門学校

参加者：校長、副校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、総合情報センター長、地域実践教育センター長、協働研究センター長、技術センター長、事務部長、総務課長、学生課長

目的：令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の自己点検評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	令和6年度末に初めて本教育プログラム修了者が卒業を迎えたところであるが、当該学生の進路状況については全て把握できている。将来的には、本教育プログラム修了者に係る活躍状況等を調査する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	令和6年5月、地元企業数十社に対して、本教育プログラムの内容を含む本校電気情報工学科のカリキュラム等に関するアンケートを実施した。産業界における高度情報専門人材の需要の高まりとともに、本校教育に対する期待、特にAI、データサイエンス、情報セキュリティといった先端情報分野に係る教育内容の充実を望む声が多いことが確認できた。 また、教育研究、管理運営、地域連携等に関する事項に関し、産業界を含む学外有識者からの助言を求めため、運営顧問会議を毎年度開催している。当該会議における意見は、本教育プログラムを含む教務委員会における教育内容の改善に活用している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	本教育プログラムでは、例えば「情報処理Ⅰ」で各専門分野におけるデータサイエンスやAIの活用事例を学びつつ、「AI基礎技術演習」においてディープラーニング等のAI活用技術を修得する内容となっており、学生が数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさや興味・関心を高められる内容となっている。また今後、本校と連携している広島大学の情報系教員や本校地域コンソーシアム加盟企業のDX推進担当者に講演やスポット講義等を行っていただくことも検討されており、不断の改善を図っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	学生による授業アンケートに「先生は、学生の理解を促すためにわかりやすく教えてくれましたか。」の設問があり、自由記述欄における感想・コメントと併せて、授業内容の改善を図る仕組みが確保されている。また、本校地域コンソーシアム加盟企業との情報交換等を通じて、変化の速い産業界の動向を把握し、それを教育内容に反映させることで、内容・水準を維持・向上しながら分かりやすい授業の実現に努めている。

内部評価の基準

A: 十分満足している。B: 満足している。C: 改善を要する。